

平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月12日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社サハダイヤモンド

コード番号 9898 URL <http://www.sakha.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 今野 康裕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役プライダルジュエリー事業部長 (氏名) 亀井 晃

TEL 03-3846-2061

四半期報告書提出予定日 平成23年8月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	351	△49.9	△131	—	△157	—	△154	—
23年3月期第1四半期	701	234.6	△142	—	△246	—	△271	—

(注)包括利益 24年3月期第1四半期 △80百万円 (—%) 23年3月期第1四半期 △312百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	△0.68	—
23年3月期第1四半期	△1.76	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第1四半期	2,264	1,900	82.4	6.96
23年3月期	2,136	1,623	75.9	8.14

(参考)自己資本 24年3月期第1四半期 1,865百万円 23年3月期 1,622百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,050	△8.9	△150	—	△220	—	△225	—	△1.13
通期	2,700	42.0	△200	—	△300	—	△310	—	△1.56

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期1Q	268,172,137 株	23年3月期	199,326,052 株
24年3月期1Q	19,584 株	23年3月期	18,844 株
24年3月期1Q	228,812,482 株	23年3月期1Q	154,334,305 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続が実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項等については、添付資料のP.3「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災によって大きな打撃を被りました。生産設備の損壊やサプライチェーンの寸断などの直接的被害のみならず、原発事故による電力供給不安の発生など社会的インフラへの影響や懸念すべき問題も多く、先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの属する宝飾業界においても、不況を背景とした消費マインドの落ち込みに加え、企業間の価格競争も激化しており大変厳しい経営環境となっております。

このような状況の中、当社グループは、その販売チャネルを小売業にシフトして4年目となります。

当社グループのブライダルジュエリー事業では、プロポーズを促すセット商品がマスコミで頻繁に紹介され注目を集める中、バージンダイヤモンド銀座本店、名古屋本店では様々な工夫をこらし、小規模なセミナー及び婚活パーティー等を開催し、顧客の囲い込みを行っております。

また、eショップ（インターネット販売）では、顧客のニーズにあった商品を揃えて様々な顧客層を取り込みながら、会員数、売上の拡大を図ってまいりました。

一方、当社の海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド（ロシア）は原石及び原石加工販売を行っております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績については、売上高は351百万円（前年同期比49.9%減）、営業損失は131百万円（前年同期は営業損失142百万円）、為替差損23百万円の発生等により経常損失は157百万円（前年同期は経常損失246百万円）、四半期純損失154百万円（前年同期は四半期純損失271百万円）となりました。

セグメント別業績の概況は次のとおりであります。

（ブライダルジュエリー事業）

ブライダルジュエリーの販売では、高額商品の売上が伸びたことから、売上高は69百万円（前年同期比183.3%増）、セグメント損失は4百万円（前年同期比セグメント損失は18百万円）となりました。

（インターネット事業）

eショップの販売では、消費マインドの落ち込みから、売上高は50百万円（前年同期比19.9%減）、セグメント損失は16百万円（前年同期比セグメント損失は8百万円）となりました。

（ダイヤモンド研磨事業）

海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド（ロシア）の売上高は224百万円（前年同期比63.4%減）、セグメント損失は14百万円（前年同期比セグメント損失は14百万円）となりました。

（トレーディング事業）

トレーディング事業の売上高は7百万円、セグメント利益は0百万円となりました。

なお、当事業は新たに開始した事業のため、前年同期の記載はありません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結累計期間末の総資産は2,264百万円となり、前連結会計年度末と比較して127百万円増加いたしました。資産、負債及び純資産の状況は次のとおりであります。

①資産

売掛金が50百万円、未収消費税が41百万円増加したこと等により127百万円の増加となりました。

②負債

未払金が43百万円、前受金が92百万円減少したこと等により149百万円の減少となりました。

③純資産

新株式の発行による資本金の増加が179百万円あったこと等により277百万円増加しております。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年5月20日に公表いたしました平成24年3月期第2四半期、通期（連結）の業績予想に変更はありません。

なお、上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、当第1四半期連結累計期間において154百万円の四半期純損失を計上し、平成16年3月期より継続的な純損失を計上しております。また、キャッシュ・フロー面でも営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスが続いております。

当該状況を改善すべく「中期経営計画」を策定し、対応策の施策を行っておりますが、早期の業績回復は依然として不透明であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23	46
受取手形及び売掛金	33	83
商品及び製品	655	644
その他	35	89
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	743	859
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	312	355
減価償却累計額	△36	△84
建物及び構築物（純額）	276	271
その他	30	83
減価償却累計額	△27	△80
その他（純額）	2	2
建設仮勘定	1,040	1,047
有形固定資産合計	1,319	1,321
無形固定資産		
のれん	—	9
その他	6	6
無形固定資産合計	6	15
投資その他の資産		
投資有価証券	8	8
破産更生債権等	118	118
その他	62	62
貸倒引当金	△122	△122
投資その他の資産合計	67	67
固定資産合計	1,393	1,404
資産合計	2,136	2,264

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26	18
未払金	165	121
未払法人税等	9	7
前受金	273	180
その他	35	32
流動負債合計	510	361
固定負債		
その他	3	3
固定負債合計	3	3
負債合計	513	364
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,609	2,788
資本剰余金	174	353
利益剰余金	△1,192	△1,347
自己株式	△2	△2
株主資本合計	1,588	1,792
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
為替換算調整勘定	34	73
その他の包括利益累計額合計	34	73
新株予約権	0	—
少数株主持分	—	34
純資産合計	1,623	1,900
負債純資産合計	2,136	2,264

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	701	351
売上原価	661	300
売上総利益	40	51
販売費及び一般管理費	183	183
営業損失(△)	△142	△131
営業外収益		
受取利息	0	0
受取賃貸料	2	—
その他	0	1
営業外収益合計	2	1
営業外費用		
支払利息	0	—
為替差損	104	23
株式交付費	—	1
その他	1	0
営業外費用合計	105	26
経常損失(△)	△246	△157
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1	—
前期損益修正益	3	—
特別利益合計	4	—
特別損失		
固定資産除却損	0	—
たな卸資産処分損	28	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	0	—
特別損失合計	29	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△270	△157
法人税、住民税及び事業税	0	0
法人税等調整額	—	△2
法人税等合計	0	△2
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△271	△154
四半期純損失(△)	△271	△154

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△271	△154
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△0
為替換算調整勘定	△41	73
その他の包括利益合計	△41	73
四半期包括利益	△312	△80
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△312	△115
少数株主に係る四半期包括利益	—	34

(3) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、当第1四半期連結累計期間において、154百万円の四半期純損失を計上、平成16年3月期より継続的な純損失を計上しており、キャッシュ・フロー面でも、営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスが続いております。

当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

四半期連結財務諸表提出会社である当社は、当該状況を解消すべく、経営の合理化を継続しており、ブライダルジュエリー店舗網の大幅縮小を実施したほか、管理部門の合理化や支出の見直しにより、徹底した経費削減を推進しております。

平成22年7月1日には、各事業部門の責任と実績の明確化、業務執行と意思決定の迅速化などを目的に、ブライダルジュエリー事業を新設した株式会社バージンダイヤモンド・ジャパンに承継し、当社を持株会社とする持株会社制へ移行しております。この体制下、ブライダルジュエリー事業、ネット事業、ダイヤモンド研磨事業の3事業を展開しておりますが、これに加え、4つ目の事業として商社部門を設け、子会社、(株)サハダイヤモンド・トレーディングを平成22年9月30日に設立し、金地金販売や資源開発などの事業を、リスクを見極めながら慎重に進めております。なお、金地金販売については、8月にロシア連邦サハ共和国が同国史上初めて実行した金輸出取引の相手先の座を当社が獲得して開始した業務を、同社が引き継ぎ行っているものであります。

他方、ジュエリーの販売促進策としてはプロポーズを促すセット商品がテレビなどマスコミで頻繁に紹介され、注目を集める中、各店でも様々な工夫をこらし、小規模なセミナーや婚活パーティーを毎月開いて顧客基盤の拡充を図っております。さらに結婚式場などの販売提携先との顧客紹介拡大やWebサイトの改良による効率的な集客に注力するなど、集客強化策も推進しております。また本部の店舗サポートスタッフを店舗駐在とし、営業体制の強化策も実施しております。

資金面では、平成21年12月30日に第9回新株予約権を発行しており、前連結会計年度において300百万円、平成23年5月に358百万円が行使され、800百万円全額の行使が完了しました。今後も事業資金の確保のため、資金調達を検討しております。

しかし、これら対応策に関して、販売施策面においては景気動向と消費マインドの影響を受けること、また資金調達面においては新たな資金調達の枠組みが固まっておらず、投資家の投資行動も当社株価や投資家の状況に強く影響されることなどから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(4) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注)	合計
	ブライダル ジュエリー事業	インター ネット事業	ダイヤモンド 研磨事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	24	62	614	701	—	701
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	—	—	2	△2	—
計	27	62	614	704	△2	701
セグメント利益又は損失（△）	△18	△8	△14	△41	△101	△142

(注) 1. セグメント利益又は損失（△）の調整額△101百万円には、セグメント間取引消却△2百万円及び配賦不能営業費用△98百万円が含まれております。配賦不能営業費用は、親会社本社の総務・経理部門等の管理部門に関する費用であります。

2. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ブライダル ジュエリー 事業	インター ネット事業	ダイヤモンド 研磨事業	トレーディ ング事業 (注) 3	計		
売上高							
外部顧客への売上高	69	50	224	7	351	—	351
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	0	—	—	2	△2	—
計	71	50	224	7	354	△2	351
セグメント利益又は損失（△）	△4	△16	△14	0	△35	△96	△131

(注) 1. セグメント利益又は損失（△）の調整額△96百万円には、セグメント間取引消却△0百万円及び配賦不能営業費用△96百万円が含まれております。配賦不能営業費用は、親会社本社の総務・経理部門等の管理部門に関する費用であります。

2. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. トレーディング事業（ロシア産金地金の輸入販売及び資源に関する品目の取り扱い）は、新たに開始した事業であり、報告セグメントの内容を変更するものではありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年5月23日付で、Eurostar HK Holdings Limitedから第9回新株予約権の行使に伴う払い込みを受けました。この結果、当第1四半期連結会計期間において資本金が179百万円、資本準備金が179百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が2,788百万円、資本準備金が353百万円となっております。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。